

## リーディング総目次

## 第1号目次

『妖精の女王』における悪意の系譜——第六巻を中心として……………	安達 範子	1
ジョージ・ハーバートの〈受苦〉……………	鈴木 聡	14
『嵐ヶ丘』における内と外、個人と社会について……………	宇田 和子	25
記憶化の儀式——ハーディの詩的方法……………	佐藤 容子	43
『リトル・ドリット』は象徴的作品か……………	山本 史郎	56
E.M.フォースターの説話行為——「人間のレベル」と「象徴のレベル」……………	新藤 紀子	72
The Aureate Terma in the Post-Chaucerian Period……………	Ayako Kobayashi(小林 絢子)	99

## 第2号目次

## 過剰のドラマトゥルギー

シェイクスピア『シムベリン』における構造と反=構造……………	大橋 洋一	1
反響する空洞『ハイドリオタフィア』論……………	秋山 嘉	41
〈受苦〉の反復 ハーバートの『宮』をめぐって……………	鈴木 聡	59
祖型的戦い『復樂園』の反復の手法とテーマ(一)……………	里麻 静夫	73

## 第3号目次

自分についての本を詠むハムレット『ユリシーズ』第九挿話……………	林 完枝	1
T.S.エリオットにおける原型的イメージ……………	桑子 利男	10
現実的世界のうちにおける行為と〈自己〉の破滅 パトウサン『ロード・ジム』……………	黒瀬 恭子	30
"A Pure Woman" <i>Tess of the d'Urbervilles</i> 再考……………	新藤 紀子	57
Shakespeare's Treatise on Art: <i>The Winter's Tale</i> ……………	Kazue Masaoka(正岡 和恵)	74

## 第4号目次

変貌する者たち——ヘレナとパローレス——……………	小林 西子	1
エリザベス朝演劇 試論一 1600年の「劇場」 ——小津次郎先生に捧げます——……………	広瀬 雅弘	15
エリザベス朝演劇 試論二 1600年の「鏡像」 ——柴田稔彦先生に捧げます——……………	広瀬 雅弘	31
アンドルゥ・マーヴェルあるいは制度としての詩学……………	鈴木 聡	49
特殊化された感受性——サミュエル・ジョンソン試論……………	桑子 利男	73
自我人格の二類型——ホイットマンとキーツ——……………	道家 英穂	107
『ナーシッサス号の黒人』における語りの形態——現実と幻想と——……………	木村 茂雄	120
『ユリシーズ』試論……………	林 完枝	135
ディケンズの文体研究序説……………	斎藤 兆史	180
<i>King Richard II</i> —— <i>The Actor's Tragedy</i> ——……………	Kazue Masaoka(正岡 和恵)	194

## 第5号目次

エリザベス朝演劇試論3——1600年の「 <sup>マーズ</sup> 火星」……………	広瀬 雅弘	2
ノンセンス文学としての『間違いつづき』……………	桑子 利男	15
ベリンダの当惑——『巻毛凌辱』における目覚めの意味……………	望月 麻子	19
嵐が丘からマザリング・ハイツへ……………	林 完枝	30
Towards End —— <i>Howards End</i> における 'connect' をめぐる倫理的雑考……………	斎藤 兆史	38
失われた楽園を求めて——『序曲』成立に到る道のり……………	道家 英穂	50
「荒地」試論……………	辻 昌宏	59
Toward the New Medium: Notes on T.S. Eliot's Early Poetic Mode……………	松井みどり	67

## 第6号目次

ワーズワースにおける想像力と自然……………	道家 英穂	2
『リチャード三世』論——歴史を演ずるせむしの生費……………	中野 春夫	11
ロマン派の理想主義とそのゆく方——シェリーの場(その1)……………	笠原 順路	24

アーサー・シモンズと『ラヴェングロー』	南條 竹則	40
『荒地』における神話の深層・解体	松井みどり	50
死について書く詩人 — ポウプ、墓碑銘、エレジー	辻 麻子	57
The Waste Landとその時代	辻 昌宏	67
チューダー・インターロードの夜明け — 『ファルジェンスとルークリース』	中野 春夫	77

## 第7号目次

ジョージ・ピール『エドワード一世』 — 改訂とその意義	中野 春夫	2
Ben Jonson and the Underlander		
— The Audience's Part in <i>Sejanus</i>	Mami Adaxhi (安達 まみ)	19
「エロイザの二つの声 — 仮面としての詩」	辻 麻子	39
『トム・ジョーンズ』論(1) — 現実を無効化するフィクション	原田 大介	50
ロマン派の理想主義とそのゆく方 — シェリーの場合(その2) —	笠原 順路	60
『ジェイン・エア』試論	林 完枝	68
開かれた窓 — 『嵐が丘』解釈試論	新妻 昭彦	82
<i>The Well-Beloved</i> (『愛されし物』) — 芸術家の帰郷の物語 —	栗林 智子	100
Geometrical Design of <i>The Golden Bowl</i>	Yoshifumi Saito (斎藤 兆史)	108
Tragedy as Dionysian Form of Art:		
Comparison between the Dramatic Theories of		
Friedrich Nietzsche and W.B. Yeats	Midori Matsui (松井みどり)	115
<i>The Years</i> の或る結末	宮田 裕三	128
リフレクシブ・フィクションとしての『幕間』	虎岩 直子	131
「不在」の 대기 — Seamus Heaney の “Glanmore Sonnets”	中尾まさみ	141

## 第8号目次

『トム・ジョーンズ論』(2) — 語り手と読者 —	原田 大介	2
『ミドルマーチ』試論	片岡 信	11
“Easter 1916” にみえるイエイツの現実受容	中尾まさみ	19
“Mrs. Dalloway” における「語り」と「構成」、「構成」と「主題」	鵜飼 信光	29
— 「意識の流れ」手法の演劇的要素とその意味について —		
〈家庭の天使〉を殺す Virginia Woolf	虎岩 直子	37

## 第9号目次

Metaphoric Accumulation: Notes on the Structure of <i>The Faerie Queene</i>	Masako Ohno (大野 雅子)	2
Two Conflicting Principles Reconciled:		
The ‘Free Life’ and the ‘Confining From’ in <i>The Rime of the Ancient Mariner</i>		
	Akira Fujimaki (藤巻 明)	15
<i>The Woodlanders</i> の位置	新妻 昭彦	24
『バート・ノートン』試論	北沢 格	34
<i>Between the Acts</i> における生命のはげしさの主題	鵜飼 信光	42

## 第10号目次

ジェイン・オースティンと「恋愛」	榎本 武文	2
水泡に浮かぶ影 — Shelley 後期の Romantic Irony —	宮本なほ子	13
D.G. ロッセッティ『生の家』における〈瞬間〉の二重性	松村 伸一	22
The Characters and the Modes of Writing in James Joyce's <i>Ulysses</i> (1)		
— Morning of Contrast —	Tatsuro Tanji (丹治 竜郎)	35
Where A Father Comes Across A Son: An Essay on <i>Ulysses</i>	Mikio Fuse (扶瀬 幹生)	58
歴史探究者としてのパウンド — 「マラテスタ詩章」 —	高岸 冬詩	65
「静止点」の探究 — 『バート・ノートン』から『四つの四重奏』へ	北沢 格	72

## 第11号目次

Poetics of Praise— Notes on Shakespeare's <i>Sonnets</i>	Masako Ohno (大野 雅子)	2
<i>Epicoene</i> and the Disruption of Established Structures	Michiko Suzuki (鈴木美智子)	11
“Tintern Abbey” から <i>The Prelude</i> へ — 詩人 Wordsworth の成長 —	山田 尚仁	22

「空虚な貝殻」と「ランプ」—— <i>Alastor</i> における詩的探究の意味 ——	宮本なほ子	35
ハウスマン毒舌録(2)	南條 竹則	44
Secrecy in <i>The Secret Agent</i>	Asako Nakai(中井亜佐子)	46
片意地な島々から人間の過剰の海へ —— 『ヒュー・セルウィン・モーバリ』 についての覚え書き ——	藤巻 明	55
収容所でのパウンド —— 「ピサ詩章」 ——	高岸 冬詩	63
『荒地』における空間感覚	阿部 公彦	72
混乱の収束 —— 転換点としての『荒地』 ——	北沢 格	85
母胎、頭蓋、宇宙 —— ベケット的空間への一視座 ——	田尻 芳樹	92
ロレンス・ダレル『アレキサンドリア・カルテット』 —— 小説を書くことについての小説というすぐれて現代的な現象について ——	丹治 竜郎	102

## 第12号目次

## Representing Shakespeare the Dramatist

A Study of the Early Title-Pages	Reiko Oya (大矢 玲子)	2
『ペリクリーズ』 —— 不毛と豊饒の狭間 ——	由井 哲哉	11
溶解する鏡面 —— <i>Songs and Sonnets</i> 試論 ——	阿部 曜子	19
「書物の書物」と Nether Stowey の月 —— Coleridge の想像力について (1) ——	宮本なほ子	28
The Economy of Desire in <i>Great Expectations</i>	Kazuhiro Ando (安藤 和弘)	35
振り子の不安 —— <i>The Golden Bowl</i> における気まぜさの正体 ——	阿部 公彦	41
Transmutation of Emotion in T. S. Eliot's Work	Yuki Yamada (山田 由紀)	58
Impersonal な個と愛の行方 —— 『恋する女たち』 への現代芸術の影響 —— (アフリカ彫刻、イタリア未来派、マーク・ガートラー、ロジャー・フライを中心にして)	神徳 敦子	66
“There's music everywhere.” —— 『ユリシーズ』 第十一挿話について ——	大田 美和	90
The Characters and the Modes of Writing in James Joyce's <i>Ulysses</i> (2) —— Afternoon toward Closure ——	Tatsuro Tanji (丹治 竜郎)	95
ボルヘスとベケット —— <無限> をめぐって ——	田尻 芳樹	113

## 第13号目次

## 反復の詩学

—— シェイクスピアの『ソネット集』 について ——	大野 雅子	2
Shakespeare's Sonnet 73 — An Empsonian Approach —	Kenji Go (郷 健治)	10
トマス・グレイの詩に見る不安の道德性について	田村 齊敏	20
老水夫の海、Coleridge の海 —— Coleridge の想像力について (2) ——	宮本なほ子	30
ジェーン・オースティンの小説は本当におもしろいのか、 という微妙な問題について	阿部 公彦	37
『白孔雀』『侵入者』『息子と恋人』 における絵画的イメジについて —— ラファエル前派と印象派を中心にして ——	神徳 敦子	49
The Truth behind the Revealed Truth —— Modernity and Truth in the Apocalyptic Visions of T.S.Eliot and Ezra Pound ——	Shin Ohta (太田 晋)	61

## 第14号目次

The Unbound Symmetry of the Beautiful and the Sublime in *The Pleasures of Imagination*

	Nahoko Miyamoto(宮本なほ子)	2
悲しきインド —— 『キム』 における非言語的のユートピアの解体 ——	永富 久美	12
The Ethnographic Unconscious: Malinowski and the Freudian Text	Asako Nakai(中井亜佐子)	22
予告された父殺しの記録 —— <i>To the Lighthouse</i> における父権的物語の廃絶について ——	太田 晋	36
〈ショール〉と〈どくろ〉 —— 『三ギニー』 における性的差異の再編成 ——	片山 亜紀	51